会 議 記 録 (概 要)

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議 記録を公表します。

会議名	高松市総合都市交通計画推進協議会交通機能部会(平成24年度第2回)
	および交通結節部会(平成 24 年度第 3 回)合同部会
開催日時	平成 25 年 2 月 1 日 (金) 14 時 00 分~
開催場所	高松市役所 13 階 大会議室
議題	ことでん新駅の設置について
公開の区分	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
上記理由	_
出席委員	【交通機能部会】
	古川部会長,本多副部会長,川上委員,横山委員,野口委員,米井委員,
	高橋委員,今西委員,山本委員(代理:多田),木村委員,津川委員
	(欠席委員2名:土井委員,草薙委員)
	【交通結節部会】
	川上部会長,高木副部会長,西牧委員(代理:長戸),野口委員,
	米井委員, 高橋委員, 小原委員, 山本委員(代理:多田), 木村委員,
	梶ヶ谷委員
	(欠席委員2名:土井委員,草薙委員)
傍聴者	1人 (傍聴席:8席を確保),報道4人
担当課および連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果

次のとおり、部会を開催した。

(事務局)

本日は、いずれの部会も部会員のうち過半数以上の方が出席しているので、高松市総合都市 交通計画推進協議会条例第7条第4項において準用する第6条第2項の規定により、会議は成 立する。

1 議事の協議について

次の議事について協議し、下記の結果となった。

ことでん新駅の設置について

・・・事務局より説明

以後審議

(部会長)

意見、質問などがあれば、お願いしたい。

(委 員)

費用便益比について,通常の事業と比較して高く,今すぐにでも着手すべき事業と見受けられるが,この数字についてはどう考えておられるか。

(委 員)

新駅の設置について,引き続き詳細な検討を進めるとのことであるが,現段階で具体的な事項があれば伺いたい。

(事務局)

新駅設置に伴い増加する旅行時間による減益や、高速バス路線利用者の利便性向上により増加する便益といった項目については、現時点では分析が困難なことから、あくまで各ケース間の相対比較を行うものとして費用便益比を算出している。したがって、今回の費用便益比は絶対的な評価値でないため、その取扱いに留意いただきたい。

今後,活用が可能となるパーソントリップ調査結果や住民アンケート調査により,費用対効果を精査するとともに,事業化に不可欠なスキームについても引き続き検討してまいりたい。

(交通結節副部会長)

新駅の設置と複線化整備は切り離して考えてはどうか。仏生山駅の結節拠点整備が今後見込まれる中で、同駅までの複線化を行うべきである。

(事務局)

交通戦略計画においては、LRT導入に伴う仏生山駅までの複線化も示されており、今後、 将来的に目指す交通体系をしっかりと展望しながら、その在り方を更に検討してまいりたい。

(交通結節副部会長)

新駅1の構造について、2案提示されているが、費用がかかっても国道南側からの連絡通路 は利用者の利便性から見て実施すべきである。

(事務局)

国道の付帯施設としての事業形態も視野に入れ,住民アンケート調査の結果を踏まえながら 結論付けてまいりたい。

(委 員)

新駅2の設置については、太田駅に対してあまりにも近く、太田駅を新駅2の場所に移して、 1つにまとめるよう検討できないか。

(交通結節副部会長)

駅の場所とまちの構造が、徐々にずれてきていると感じるが、利用者が減少しているからといって、駅を廃止していいかどうかの判断は難しいと思われる。

(事務局)

新駅2と太田駅の近接性については、事業を進めていく中で解決しなければならない課題であり、そのまま新駅2を安易に整備することはできないと考えている。

(交通結節副部会長)

現状の空港通り駅については、既存バス停と駅が離れている。この構造と同様となる新駅2 については、バスとの結節性を良くするためにも橋上バス停を設け、昇降設備により駅とのアクセス性の向上を図れないか。

(事務局)

バス路線が橋上道路を通り抜けるものであれば、昇降設備による結節が必要であるが、この 新駅の場合は、交通結節拠点の始終発点と考えており、バスが高架下を折り返すルートとなる 平面接続を想定している。

(交通結節副部会長)

長尾線については、新駅において電車行き違いのために6分停車することは、JRとの接続 も悪くなることも含め、利用者にとって相当の抵抗になると思われる。新駅整備よりは、既存 駅へバス路線を接続し、利用を促すほうがよいのではないか。

(交通結節部会長)

長尾線のダイヤについては、現状のダイヤを維持することが前提であるが、運行事業者としては、琴平線とのダイヤ調整により利用者の利便性が総じて確保されるよう努めるものである。

(事務局)

今後、詳細を検討してまいりたい。

(委 員)

新駅設置は、バスとの結節強化が期待されるところではあるが、既存路線バス利用者への影響は、バス路線の再編も含め精査する予定はあるか。

(事務局)

定量的に把握できるかどうか難しい部分もあるが、鉄道とバスの接続により、双方の利用が 高まるようなネットワーク構築を検討してまいりたい。

(委 員)

現在の鉄道と比べ、新交通システムの環境負荷はどうか。環境汚染から影響を受ける健康面から見ても、将来的に環境負荷の低い公共交通を中心とした交通システムに期待したい。

(交通結節部会長)

「ことでん」では、1日に約300本の電車により、年間1300万人の利用者を2億円の電気代で運んでいるが、同一の人数が自動車を利用した場合に生じる環境負荷と比較すれば、相当に低く、新交通システム導入により利用者が増えれば、なお環境負荷が減ると期待される。

(事務局)

環境にやさしい公共交通の役割を重視し、今後の技術革新にも期待しながら、環境負荷の低い交通システムの導入を目指してまいりたい。

(交通結節部会長)

鉄道事業者としての立場から、本協議の取りまとめは交通機能部会長に委ねたい。

(交通機能部会長)

費用対効果の精査,事業実施スキームに加え,駅整備の詳細について,今回議論いただいた 内容を含めて,今後,事務局に引き続き検討いただきたい。

審議終了

2 事務局より次回合同部会等について説明

次回合同部会の開催については、日程調整して連絡させていただく。

閉会

以上